



彩の国
埼玉県



埼玉県熊谷家畜保健衛生所

住所 熊谷市円光1-8-30

電話 048-521-1274/FAX048-526-1063

(夜間・休日等は緊急携帯電話に転送)

E-mail k211274@pref.saitama.lg.jp

家畜衛生だより

令和7年1月発行



ランピースキン病の最新情報について



この度、農林水産省が「ランピースキン病の早期発見とまん延防止対策」のリーフレット(別紙)を作成しました。

症状や対策等がわかりやすくまとまっていますので、ぜひ一読いただき日頃の衛生管理にお役立てください。

現在、福岡県由来の牛は米国へ輸出できません

令和6年12月発行の家畜衛生だよりでお知らせしたとおり、福岡県でランピースキン病のワクチン接種が開始されました。

ワクチン非接種牛を含み、ワクチン接種県に由来する全ての牛は米国への輸出ができません。以下の点をご確認ください。

- ワクチン接種県由来の牛は、米国向け輸出牛肉取扱施設(以下、「米国認定施設」)へ搬入できません。個体識別情報検索サービスを用いて、出荷牛がワクチン接種県由来でないことを確認してください。
- 米国認定施設へ出荷する際には、車両を洗浄・消毒し、ワクチン接種牛と非接種牛を同乗させないでください。

ランピースキン病の早期発見とまん延防止対策のお願い

2024年11月、国内ではじめてのランピースキン病の発生が福岡県で確認されました。この病気は、発症牛のほとんどが自然に治りますが、発症牛の生乳出荷や移動の自粛が必要となります。地域でのまん延を防ぎ、畜産経営への影響を最小限に抑えるため、健康観察による**早期発見**と**自主淘汰**、**まん延防止対策**をお願いします。

01 ランピースキン病とは

- 特性** 発熱、乳量の低下、皮膚に病変(結節)が生じる牛の病気。人には感染せず、畜産物の食用も安全
- 予防・治療** 致死率は低く、ほとんどの牛が徐々に回復する。**有効なワクチン**で発症予防できる
- 伝播経路** 主にサシバ工等の**吸血昆虫**を介して拡大。感染牛や車両、資材、人の移動でも拡大
- 影響** 発症牛の生乳出荷や移動の自粛



結節（全身性）



結節

結節

写真提供: FAO, State Central Veterinary Laboratory in Mongolia



疑わしい症状を見つけたら、すぐに**獣医師**又は**家畜衛生保健所**に連絡ください

02 生乳出荷・牛移動の自粛をお願いします

STOP

生乳の出荷

- 発症牛の生乳の出荷を自粛
- 非発症牛(同居牛)の生乳は出荷可能



STOP

牛の移動

- 発生農場からの牛の移動を自粛^{※1}
- ワクチン接種牛は個別に自粛解除(下記参照)



ワクチン接種や発症から一定期間経過すると自粛が解除されます

発症牛：判定日から28日目より後に行う検査^{※2}により陰性を確認

同居牛：農場内で最後に発症した牛の判定日から28日目より後に行う臨床検査で陰性を確認

ワクチン接種牛：接種から3週間経過後、臨床症状がないこと

※1：非発症牛(同居牛)との農場への出荷は可能 ※2：原則として自粛による抗原検査、他の農場や家畜市場に移動する場合は皮膚による抗原検査

03 対策

✓ 早期発見とまん延防止（発生してしまった場合の緊急対策）

- 日頃の健康観察により**早期発見**し、発症牛の速やかな**自主淘汰**で発生源を断つとともに、発症牛の生乳出荷や発生農場の牛の家畜市場等への移動を**自粛**してください（前変が見られる前に発熱が見られることに注意）
- 面的に拡大してしまった場合は、速やかな**ワクチン接種**をお願いします

✓ 発生予防（発生を未然に防ぐための対策）

- 農場の**吸血昆虫を減らす**対策をお願いします
 - ・窓や出入口に防虫ネットを設置する、殺虫剤をローテーション散布する（成虫対策）
 - ・牛舎の隅など牛が踏みつけない場所などにIGR剤を散布する（幼虫対策）
 - ・サンパエは牛舎周辺の雑草で休憩するため、雑草を刈る
- 農場間で**ウイルスを伝播しない**対策をお願いします
 - ・暑い時期はハエが暖かい車内集まるため、車内内外の洗浄、殺虫をする
 - ・搬入出する牧草などにハエが潜んでいないか、確認する

※3: 特に、農場を中心とした発生するサンパエへの対策が重要ですが、発症農場の発生農場では、サンパエがいない農場まで感染拡大が知られていました。なお、特に手前のパエは夏シーズンの1方向に発生することのあるため、対策が重要です。



写真提供：発生したパエ（サンパエ）の画像（左）

04 支援策

01 まん延防止・ワクチン接種の推進

- 発症牛や発生農場由来牛を自主淘汰した場合の**再導入**への支援（乳用初妊牛・肉用繁殖雌牛 60万円/頭）※4
- 出荷自棄中の生乳の適切な廃棄処分に係る費用への支援
- 農場の消毒や**吸血昆虫**対策への支援
- ワクチンの**無償配布**※5
- ワクチン接種の影響に関するリスクコミュニケーション
- ワクチン接種県（福岡県）からの輸入を一時停止した米国の協議を継続

02 経営支援

- 日本政策金融公庫の農林水産業セーフティネット資金の円滑な融通、公庫支店に相談窓口を設置
- 家畜疾病経営維持資金の対象に本病を追加
- 国から飼料関係団体に対する飼料代金の支払猶予の要請
- 円滑な生乳の出荷再開に向けた検査体制の整備
- 子牛の引き取り先・販路確保に向けた関係者間の調整

※4: 令和7年度もAIC事業で切れ目なく支援
 ※5: 2024年度産別奨励金により日本動物医薬品協会が配布

05 ワクチンの効果

- ランベースキン病には**発症を予防**できるワクチンがあります

有効性

- ✓ 韓国では全頭へのワクチン接種以降、発生件数が**大幅減**※4
- ✓ 撲滅のために**最も有効なツール**として国際機関が推奨

安全性

- ✓ 海外で15年以上にわたり約3,000万ドーズ以上が使用され、重篤な副反応はほぼない
- ✓ 副反応として一時的な乳量減少や注射部位の腫れ、皮膚の結節等が見られるが、通常は自然に消失する
- ✓ ワクチン接種牛の生乳や肉を摂取することによる健康リスクは無視できる程度

- 国内ではMSD Animal Health社のワクチンを備蓄中

ワクチン接種完了前後のLSD発生状況（韓国）

	発生期間	発生件数
接種完了前 (2023年)	33日前 (10/19-11/20)	107件
接種完了後 (2024年)	120日前 (8/12-12/10)	23件

※6: 2023年11月20日に全頭を対象とした接種が完了。2024年の発生をゼロにできなかったのは、一部にワクチン接種漏れがあったためと韓国政府は分析